

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	馬込ここわ保育園
法人名	株式会社ディアログ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が子どもたちに問いかけました。「この動物さん、なんてなくかな〜？」  
「どうぶつえんで、どんなこえでなくてたか、きいたことある？」  
「リゼインせんせいは えいごの せんせいなんだよね。えいごでも おなじ こえかな〜？」  
英語講師が来園する日は、動物の鳴き声が出てくる英語の歌を歌ったり、動物以外の擬音語・擬態語（オノマトペ）が含まれた英語の絵本を読み聞かせたりします。その際、保育者も子どもたちと一緒に活動に参加します。また、自由遊びの時間には、保育者が日本語で動物の鳴き声が入った歌を歌い、英語講師も子どもたちと一緒に楽しめます。さらに、英語の活動で使用している絵カードを使って、みんなでオノマトペ遊びも行います。  
このように、子どもも大人も一緒に、日本語と英語それぞれのオノマトペに親しみ、共有していきます。まだ発語が難しい乳児クラスにおいても、日本語と英語のオノマトペを楽しく体験できるようにしています。  
【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。  
\*歌：1歳児クラス\*カード遊び：1歳児クラス  
【振り返りと共有】毎月末には、英語講師と職員でブリーフィングを実施しています。その場で探究活動の内容を共有し、次月に向けた問いを検討するとともに、環境構成や活動の進め方、スケジュールについて話し合います。また、保育者同士でも職員会議の中で活動の振り返りを行い、気づきや課題を共有しています。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

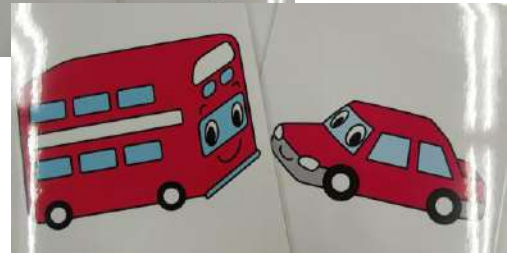
【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

\* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

\* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

\* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



#### 4 -①. 探究活動の実践（日本語）

＜活動の内容＞①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・「ゆかいな牧場」の曲は保育の中はかけていたが、改めて歌と一緒に聞きながら歌うのはなかったため、子ども達は歌の速さについていくのがやっとだった。

・ぶた・馬などの動物の鳴き声が歌に出てくると鼻に手を当てぶたの真似をし保育者の手振り、身振りを一緒に行う姿が見られた。

「イーアイイーアイオー」のところは手を横に振り「いやいやよう」と歌っていた。

#### 4 -①. 探究活動の実践（英語）

＜活動の内容＞①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・動物の鳴き声を口に出す子はいなかったが、見振りで動物を表現している子が多かった。ぶたの身振りではみんな喜んで行う子が多くいた。また、日本語の時と比べてリズムがゆっくりで、動物の名前（英語）も聞きやすかったように感じた。



#### 5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみたが、日本語で「ゆかいな牧場」を保育中にあまり歌う事がなく子どもたちにとっては初めて聞く歌となった。保育者が「ゆかいな牧場」を口ずさみ子ども達と一緒に歌う機会を設けることで動物の鳴き声など覚えやすく、子どもの興味がある部分から教えていきたいと思う。また曲をかける際は曲のテンポを遅くアレンジした方が良いと思った。一方英語の歌を英語講師が歌うと知っている動物だと安心するのか、ブーBOOと言う子が多くいた。英語の発音では「オインク、オインク」なので、日本語のなきごえを発していた。

【次回への問い】歌で動物の鳴き声は何となく理解できたが、実際の動物の鳴き声を聞いたときに子どもたちはどのような反応をするのだろうか？

#### 4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・動物の牛を見て「モウモウ」と言い牛の鳴き声は分かっていた。また、牛の動物の絵を指さしている子が多くいた。また、動物の鳴き声に合わせ講師がジェスチャーをすると分かる子は動物の絵を指し英語講師に知らせていた。鳴き声が聞こえてくると笑い近くに行き見に行ったりもう一度鳴き声を聞いたりしていた。鳴き声の真似は良くしていた。



#### 5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】知っている動物には興味を示していた。絵本（動物）などの書類を増やすのも検討していく。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

#### 4-③. 探究活動の実践（乗り物の擬音語）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使い、擬音語を探る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乗り物は好きな子が多くいるため、英語の講師の発音を真似て声にだし「Car」「bus」「train」と知っている単語は発音していた。「helicopter」は少し難しかったのか。「へり…」の後に笑っている子が多くいた。擬音語やジェスチャーは好きで真似ていたが、動物の鳴き声と動物のように乗り物と擬音語とがリンクしていないように見受けられ、ただ英語講師が言っていたから単語やジェスチャーと同じように真似をしていた。



#### 5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 普段から。乗り物などの絵本を見る機会が多くあり子ども達にとって馴染みのある乗り物だったが、その乗り物の出す音（擬音語）までの理解は薄いように思えた。動物では知っている動物、例えば犬がいつも「ワンワン」と鳴いているならば、犬と「ワンワン」がつながっているように見られたが、乗り物ではそこまでのつながりがまだできていないようだ。

【次回への問い】 英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。



#### 4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日本語で身振りをつけて子ども達に伝えと一緒に言葉で発し保育者の真似をしていた。その後に英語講師が英語で伝えと、子ども達も一緒に言葉を覚え行う事が多くあり思った以上にみんなできていた。「ごくごく」は「gulp gulp」「ころころ」は「roll roll」など英語の擬音語・擬態語は言いやすく英語講師と一緒に身振りもしながら言う子が多くいた。



#### 5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】絵を見てまた、身振りを見て擬音語・擬態語に反応する子が多くいた。絵が見やすく大きなカードでも良いと感じた。

【次回への問い】この年齢の子どもたちはどんな言葉、音でも真似をし、吸収する発達段階なので、大人の発するすべての音やことばに耳を傾けており、英語も日本語の区別、擬音語や擬態語の区別もなく、面白く聞こえる音やことばに反応し、真似をし、覚えていくように思えた。子どもたちが不思議や面白く聞こえる音やことばはいったいどのようなものなのだろうか？